

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月2日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21310162

研究課題名（和文） 移民外国人の社会統合問題をめぐる地域間比較研究：「内包」と「排除」の議論を越えて

研究課題名（英文） Comparative and Regional Study about Issues regarding Social Integration of Immigrant Foreigners: Beyond Disputes between "Inclusion" and "Exclusion"

研究代表者

河原 祐馬 (KAWAHARA YUMA)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：50234109

研究成果の概要（和文）： 本研究は、移民外国人の社会統合問題について、その政治的成員資格と新たなナショナル・アイデンティティをめぐる議論に焦点を当て、ヨーロッパや日本をはじめとするアジア太平洋地域の事例を比較地域的な観点から考察するものである。本研究の成果は、トランスナショナルなレベルにおける地域協力の取り組みについての議論が活発化する中、今後のわが国における移民政策の基本的な方向性を模索する上での一助となるものである。

研究成果の概要（英文）： This study inquires into cases about issues of social integration of immigrant foreigners regarding Europe and Asia-Pacific region, including Japan from a comparative and regional standpoint, focusing on their political membership. The results of this study help to search a fundamental course of Japanese policy on immigration from now on, in the animated discussions of various activities on regional cooperation with a transnational level.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2010年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2011年度	2,500,000	750,000	3,250,000
総計	1,140,000	3,420,000	14,820,000

研究分野：国際政治学、ロシア・東欧地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：地域間比較研究、ヨーロッパ、ロシア・スラブ地域、北アメリカ、東アジア、東南アジア、オセアニア、トランスナショナル・イシュー

1. 研究開始当初の背景

グローバル化に伴う国民国家の変容の過程で、欧米をはじめとする先進諸国の主権的空間は、移民外国人という多くの「他者」を

その内に抱え込んでいる。国民国家に組織された世界において、移民は特殊な文化や民族的出自を伴って越境し、受け入れ国におけるイングループのアイデンティティに大きく

「挑戦」する存在であると考えられる。最近の研究では、こうした他者としての移民とイングループとしての先住民との関係に着目し、移民の他者化がその受け入れ国におけるナショナル・アイデンティティの発展にどのような影響を与え得るものであるのかという問題に関心が寄せられている。また、外国人労働者の受け入れ国と送り出し国との間に生じるいわゆる循環移民をめぐる問題が国際社会の大きなテーマの一つになりつつある。たとえば、欧米では旧ソ連東欧地域や中南米地域からの、また、わが国ではEPA（経済連携協定）による東南アジア地域からの外国人労働者の流入をめぐる問題が、長期的な視野に立った移民受け入れ国と送り出し国双方の互恵的関係の構築という文脈で語られるようになってきている。

2. 研究の目的

本研究は、移民外国人の社会統合問題について、その政治的成員資格と新たなナショナル・アイデンティティをめぐる議論に焦点を当て、ヨーロッパや日本をはじめとするアジア太平洋地域の事例を比較地域的な観点から考察しようとするものである。本研究では、ヨーロッパや日本など先進地域における移民外国人の社会統合問題について、当該各国の市民権政策や外国人の法的地位問題等の考察を通じて、移民外国人の政治的成員資格とそれに関わる新たなナショナル・アイデンティティをめぐる問題についての比較地域的な考察を行うことを基本的な研究目的としている。

3. 研究の方法

本研究の研究計画は、大別して、(1) 政治的成員資格、アイデンティティおよび循環移民に関わる問題を中心とした移民外国人の社会統合問題についての理論・先行研究の整理・考察、(2) 研究対象地域における移民外国人の政治的成員資格に関わる施策、ナショナル・アイデンティティの議論を踏まえた「他者」としての移民および循環移民それぞれに関わる問題の実態についての調査と分析、(3) これら調査・研究データの分析に基づく研究対象地域における移民外国人の政治的成員資格、ナショナル・アイデンティティおよび循環移民それぞれに関わる問題の現状と課題についての比較的地域性を交えた実証分析、という踏まえるべき3つの主たる段階から成っている。研究期間の3年間を通じて、移民外国人の社会統合問題の研究に関する3つの段階を踏まえることによって、トランスナショナルな状況が惹起する移民外国人の社会統合問題をめぐる一連の問題についての考察を深め、かつ、そうした考察を通じて、グローバル化による国民国家の変容

プロセスが進行する国際社会におけるこれからの民族共生の基本的な在り方の諸条件について検討し、わが国をはじめとする当該研究対象地域における移民外国人の社会統合政策のあるべき道筋についての提言を行うよう努めている。

4. 研究成果

本研究は、国民国家の枠組みを前提とする従来の「内包（包摂）」と「排除」のそれを越えたトランスナショナルなレベルにおける議論を視野に入れつつ、労働力の国際移動等によって惹起される当該先進諸国における移民外国人の社会統合問題についての比較地域的な考察を行おうとするものであり、こうした移民外国人の社会統合問題に関する比較地域的観点に基づく研究は、グローバル化による国民国家の変容プロセスが進行する国際社会におけるこれからの民族共生の基本的な在り方を模索する上で、学術的なそれは言うに及ばず、政策的にも意義のあるユニークな研究であるとあると考えられる。特に、循環移民やディアスポラ・アイデンティティといった国境横断的なレベルにおける問題をも考察の対象とする移民外国人の社会統合問題に関する本研究の試みは、EPAやTPPといったトランスナショナルなレベルにおける国境を越えた地域協力の取り組みについての議論がますます活発化する中、開発途上の国々からの外国人に対する労働市場の一部開放が現実のものとなりつつある昨今のわが国をとり巻く状況に対して学術的に応えようとするものであり、それ故に、本研究は多文化共生施策のをはじめとする今後のわが国における移民政策の基本的な在り方を模索する上で一定の価値ある示唆を与え得るものであると考えられる。なお、本研究を終了するに当たって、研究代表者と研究分担者の研究成果の一部を一冊の報告書（全138頁）に纏めた。その目次については、以下の通りである。

序（研究組織一同）

- I 多文化主義政策と「白人の反撥」— 英国国民党躍進の意味するもの（島田幸典）
- II 戦後ドイツの韓国人移民—社会統合問題への視点—（近藤潤三）
- III 独立回復後のエストニアにおける社会統合政策の展開（河原祐馬）
- IV タイにおける「外国人」の統合（玉田芳史）
- V フィジーと二つの統合—移民の社会統合と太平洋諸島フォーラム地域統合の交錯—（小柏葉子）
- VI 韓国は何故移民を受け入れるか（木村幹）
- VII 日本における外国人の存在とナショナル・アイデンティティ意識の変容可能性—

外国人政策の近年の動向を踏まえて— (麻野雅子)

VIII 国際私法と外国人政策 (佐野寛)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

河原祐馬「エストニアにおけるロシア語系住民の社会統合 — 「戦争記念碑」問題を中心として —」『社会科学論集』第 49 号、査読無、2011 年、61-85 頁。

近藤潤三「戦後ドイツの韓国人看護師と炭鉱労働者 — ドイツ移民史の一齣 —」『社会科学論集』第 49 号、査読無、2011 年、235-255 頁。

佐野 寛「嫡出である子の親子関係の成立」、櫻田嘉章・道垣内正人編『注釈国際私法 第 2 巻』、有斐閣、2011 年、65-83 頁。

玉田芳史「タイの立憲革命と文化変容」『岩波講座東アジア近現代通史 5 新秩序の模索 1930 年代』、岩波書店、2011 年、369-386 頁。

永井史男「タイ — 「国王を元首とする民主主義」国家」、清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代史入門』、ミネルヴァ書房、2011 年、101-123 頁。

Kimura Kan, Why Are the Issue of “Historical Perceptions” between Japan and South Korea Persisting ?, *International Cooperation Studies*, No.19(1), 2011, pp.1-27、査読無。

横山豪志「インドネシア — 「多様性の中の統一」を目指して」、清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代史入門』、ミネルヴァ書房、2011 年、13-34 頁。

河原祐馬「エストニア共和国の「民主化」と「安定」、岡山大学法学会編『法学と政治学の新たな展開』有斐閣、2010 年、353-374 頁。

谷 聖美「第二次大戦後における日本の地方政治 — 地方自治制度との関係を中心に —」、岡山大学法学会編『法学と政治学の新たな展開』有斐閣、2010 年、331-352 頁。

小柏葉子「太平洋島嶼諸国と環太平洋」、渡邊昭夫編『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』、千倉書房、2010 年、199-216 頁。

Kimura Kan, How can we cope with historical disputes ? : The Japanese and South Korean experience ? , Marie Soderberg (ed), *Changing Power Relations in Northeast Asia*, Routledge, 2010, pp.19-31.

河原祐馬「エストニアの「戦争記念碑」問題」『ユーラシア研究』No.41、査読無、2009 年、67-69 頁。

Tamada Yoshifumi, “Democracy and

Popurism in Thailand”, Mizuno Kosuke and Pasuk Phongpaichit(eds), *Popurism in Asia*, National University of Singapore, 2009, pp.94-111.

麻野雅子「ポピュリズムの経験」『法経論叢』第 26 巻第 2 号、査読無、2009 年、171-197 頁。

[学会発表] (計 5 件)

玉田芳史「タイ式民主主義と 2011 年 7 月選挙」(東南アジア学会、2011 年 12 月 3 日、東海大学)

玉田芳史「タイ式民主主義の限界と不安定化」(日本比較政治学会、2011 年 6 月 18 日 北海道大学)

島田幸典「現代ポピュリズムの位相 — その普遍性と多様性」(日本比較政治学会、2010 年 6 月 20 日、東京外国語大学)

中谷真憲「フランスの移民問題とアイデンティティ — サルゴジはポピュリストか」(日本比較政治学会、2010 年 6 月 20 日、東京外国語大学)

佐野 寛「EU 国際私法はどこへ向かうのか? — ローマ II 規則をてがかりとして —」(国際私法学会、2009 年 10 月 12 日、関西大学)

[図書] (計 6 件)

佐野 寛・青木清編『国際<家族と法>』、八千代出版、2012 年、全 240 頁。

河原祐馬・島田幸典・玉田芳史編『移民と政治：ナショナル・ポピュリズムの国際比較』昭和堂、2011 年、全 281 頁。

近藤潤三『ドイツ・デモクラシーの焦点』、木鐸社、2011 年、全 420 頁。

近藤潤三『東ドイツ (DDR) の実像：独裁と抵抗』、木鐸社、2011 年、全 332 頁。

島田幸典『議会制の歴史社会学』、ミネルヴァ書房、2011 年、全 413 頁。

島田幸典・木村幹編『ポピュリズム・民主主義・政治指導』、ミネルヴァ書房、2009 年、全 212 頁。

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

該当なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河原 祐馬 (KAWAHARA YUMA)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教

授

研究者番号：50234109

(2) 研究分担者

谷 聖美 (TANI SATOMI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40127569

佐野 寛 (SANO HIROSHI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40135281

近藤 潤三 (KONDO JUNZO)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：80111863

玉田 芳史 (TAMADA YOSHIFUMI)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：90197567

島田 幸典 (SHIMADA YUKINORI)

京都大学・大学院法学研究科・准教授

研究者番号：50324596

小柏 葉子 (OGASHIWA YOKO)

広島大学・大学院社会科学研究科・教授

研究者番号：30224091

麻野 雅子 (ASANO MASAKO)

三重大学・人文学部・教授

研究者番号：10262982

永井 史男 (NAGAI FUMIO)

大阪市立大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：10281106

木村 幹 (KIMURA KAN)

神戸大学・大学院国際協力研究科・教授

研究者番号：1028110650253290

中谷 真憲 (NAKATANI MASANORI)

京都産業大学・法学部・准教授

研究者番号：60340436

横山 豪志 (YOKOYAMA TAKESHI)

筑紫女学園大学・文学部・准教授

研究者番号：80320381

(3) 連携研究者

該当なし。